【被爆アオギリ二世】

アオギリの育て方

[原産地]　インドシナ、中国、沖縄。

[性　質]　落葉高木で樹高10～15ｍ、直幹性で広円柱形の樹形となる。

成長は早く土質は選ばないが、過湿地は避ける。

[植付け]　直径60㎝、深さ30㎝程度の穴を掘り、苗木を植え付け、十分に水を注ぎ、2mくらいの支柱を立てて、軽く結ぶ。

[管　理]　肥料は、冬に油粕などを施す。せん定の必要はない。

[病害虫]　病害虫は少ないが、ワタノメイガ、マイマイガなどに食害されることがある。この場合は、ディプテレックス乳剤、スミチオン乳剤などを散布する。

メッセージ

広　島　市　長

昭和20年(1945年)8月6日、爆心地から北東へ約1.3㎞の旧広島逓信局の中庭で被爆したアオギリは、爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けて焦土の中で青々と芽を吹き、人々に生きる希望を与えてくれました。

その後、昭和48年(1973年)に平和記念公園に移植された被爆アオギリのもとでは、同じく旧広島逓信局で被爆し、平成23年(2011年)に亡くなるまで自らの体験を語り続けた沼田鈴子さんをはじめ、多くの語り部の方が、核兵器の非人道性と平和への思いを訴え続けています。

広島市では、“平和を愛する心”、“命あるものを大切にする心”を後世に継承するため、この被爆アオギリの種を育てた苗木を「被爆アオギリ二世」と名付けて配付しています。

皆さんの手で大きく育て、平和の尊さを伝えていってください。